



まつなが たかお
松永 孝男

(富岳会)

富士宮市の未来構想について

問 義務教育の目的をどう捉えているか。

教育長 義務教育は、個人の能力を伸ばす、自立的に生きる基礎を養う、社会で必要とされる基本的な資質を養うという3つの目的がある。

問 将来を担う人材をどのように育成していくのか。

教育長 富士山を心に夢を持って生きる子どもの育成を目指して、確かな学力、徳のある人間性、たくましい体という知・徳・体の調和の取れた子どもの育成に努めている。特に富士山学習を通して郷土に学び、郷土を愛する心を育み、自己の生き方を考えるための資質・能力を育ていけるように支援している。

問 「確かな学力」とは何か。

教育長 ①知識、技能。②思考力、判断力、表

現力等。③学びに向かう力、人間性等。この3つを確かな学力と捉えている。

問 2500年以上「生き方」の手本として世界中で参考にされている論語を勉強の中に取り入れられないか。

教育長 学んだ知識を、生きていくためにどう生かせるか判断できる子どもたちを育てたい。

市長 私も市政運営において論語を大事にしている。特に人の生きる道とか、大切な心構えについて論語には非常に学ぶべきものが多い。



問 市長の描く富士宮市の将来像をどのように市民に周知し、共有していくのか。

部長 広報ふじのみや、創宮などで示していく。また、職員が小中学校や高校に出向き、将来像のイメージを写真や図で説明する富士山まちづくり出前講座を実施している。これからはホームページ、SNSなどでも発信していきたい。



さの かずや
佐野 和也

(育成)

一定の交通違反歴のある方に令和4年5月13日から義務化される運転技能検査について

問 高齢者の交通手段について、今後の路線バスの方向性について伺う。

部長 市としてはJR身延線と幹線道路を放射状に運行している民間路線バスを公共の軸とし、中心市街地と周辺住宅地を横断的に結ぶ宮バスが連携し交通ネットワークを構築しており、それを宮タクで広い範囲で運行することで面的にカバーしており、今後も現在の交通体系を基本に考えていく。

問 バス停型乗合タクシーの導入の考えはあるのか伺う。

部長 宮タクは自宅と目的地をドア・ツー・ドアで運行しており、利用者は高齢者が多いことからバス停型乗合タクシーよりも利便性が高いも

のと考えられ、現時点においてバス停型乗合タクシー導入の考えはない。

問 宮タクが分かりにくいと考えるが。

部長 宮タクの周知については、免許返納をしたときに補助券を発行。その際、そのエリアの形のところは説明しており、当然ホームページでも周知している。また、各地からご要望があれば説明会なども行っている。

スポーツ施設のストック適正化計画に基づく施設の充実について

問 陸上競技場の必要性について伺う。

部長 陸上競技関係者からも要望はいただいておりますが、必要性は理解しているが、現在保有している施設の整備、リニューアルを行い機能の向上を図り、民間スポーツ施設等との連携を推進していく方針で、現時点では新たなスポーツ施設を建設する予定はない。山宮ふじざくら球技場のランニング走路を1周つながらよう整備を行い、短距離レーンを2レーン新設する。練習等ではこちらを利用させていただきたい。